

申請者名

脳神経外科学講座 講師 大谷直樹

課題名

未破裂脳動脈瘤に対する keyhole clipping 施行患者の長期予後に関する検討

本臨床研究の意義、目的

我々は未破裂脳動脈瘤に対する低侵襲手術を確立するために、直径 25~30 mm の supraorbital keyhole あるいは pterional keyhole を用いた極小開頭術からの clipping 術を施行しております。今回、Keyhole surgery にて clipping 術を施行した未破裂脳動脈瘤の神経学的あるいは放射線学的な治療成績に関する検討を、retrospective に行うことを目的としています。未破裂脳動脈瘤に対して keyhole clipping 術を施行した患者の術後の状態を確認することで、本手術の有益性が確認できれば非侵襲的な手術法として社会に還元できうると考えています。

本臨床研究の方法、期間、対象症例数

2012年8月から2015年12月までに防衛医科大学校脳神経外科学講座にて施行された keyhole clipping 術の 41 例を対象としています。対象となる未破裂脳動脈瘤は中大脳動脈瘤、前交通動脈瘤、内頸動脈瘤です。入院および外来診療録から手術前後の神経学的状態を認知機能(HDS-R, MMSE)および精神状態(Beck, HAM)などを中心に調べることによって患者の機能状態を検討します。また手術前後の脳動脈瘤の画像を検討することによって clipping による脳動脈瘤の閉塞率などを検討いたします。研究期間は、学校長承認後から平成 29 年 3 月 31 日までです。

本臨床研究に参加することによる危険、不快になりうる状態は特にございませぬ。個人情報保護につきましては連結可能匿名化にて公的な発表において個人が特定されることはございません。本研究は、今後、研究のために患者さんから検体を採取したり投薬をしたりすることはなく、これまでの外来、および入院治療においての既存資料などを用いる後方視的研究です。なお、研究への使用の拒否の意思を表明されても防衛医科大学校病院脳神経外科における診療には全く何の影響もなく、不利益を被ることはありません。

研究代表者・照会先、および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2

防衛医科大学校 脳神経外科 大谷直樹

TEL： 04-2995-1511(内線2354)